

ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2012年4月～2013年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 木本高等学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中等高等学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 その他 ( )

住所 〒519-4323  
熊野市木本町 1101-4

E-mail : hkimotad@hkimot.mie-c.ed.jp

Website : http://www.mie-c.ed.jp/hkimot/index.html

児童生徒数：男子 299 名 女子 375 名 合計 674 名  
児童・生徒の年齢 15 歳～ 18 歳

2. 担当者

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

#### 4. 活動概要

1年間の主な活動内容について簡単に記載願います（欄が足りなければ、添付資料をつけていただいても構いません）。

木本高校では30年近く、「世界遺産・熊野古道の浜街道」と浜街道につながる「西郷川」の清掃活動を継続して行っています。

また、「世界遺産・熊野古道」に隣接することもある1学年の「総合的な学習の時間」や「産業社会と人間」の時間を中心に熊野古道の歴史、文化、世界遺産の持つ意味について学習しています。

今年度初めて、夏休みには学校近くの「世界遺産・熊野古道の松本峠」を国内外の観光客に紹介する「熊野古道ガイドプロジェクト」を実施し、日本語及び英語のガイド文の作成に取り組みました。

主な活動内容は次の通りです。

#### 1. 総合的な学習の時間・産業社会と人間 熊野市内や近隣で地域貢献されご活躍されている方々の講演会

1年次に「紀伊山地の霊場と参詣道」を中心とした世界遺産学習

① 11/8（木） 講師 熊野写真事務所代表 楠本 弘児氏 「紀伊山地の霊場と参詣道～熊野古道に行く～」

内容：講師の撮影した「紀伊山地の霊場と参詣道」などの作品を通じてその魅力と伝承などの必要性を説かれた。

② 11/15（木） 講師 NPO法人MI-Kumano 玉置 仁美氏・尾崎 智子氏 「熊野比丘尼とは」

内容：戦国時代から江戸時代にかけて経済基盤が弱くなった、熊野三山の維持活動で、全国を行脚した尼僧さんの広報活動について話された。

③ 11/22（木） 講師 熊野市教育委員会 総務課長 三石 学氏 「世界遺産への歩みと取組み～発掘・整備・発信～」

内容：土に埋もれた熊野古道の発掘・調査を行い、古道として復元させ2004年の世界遺産登録に繋げた。古道が数百年の風雨に耐える構造の秘密や先人の知恵と努力、世界遺産登録後の地域づくりについても説かれた。

④ 12/13（木） 講師 三重県立熊野古道センター長 川端 守氏 「古道を歩くということ」

内容：古道を歩く意義について、「峠」、「奥の細道」を解説したのち、熊野古道と同様、道の世界遺産であるスペイン巡礼の道「サンティアゴ・デ・コンポステラ」を踏破した体験を話しながら「歩くということは、人生そのものである」と説かれた。

⑤ 1/17（木） 講師 くまの体験企画代表 内山 裕紀子氏 「熊野古道の持続可能な観光」

内容：熊野古道の案内をエコツーリズムの精神で企画、運営するに至った経緯と事業に関わることのやりがいについて説かれた。

⑥ 1/24（木） 講師 紀北教育研究所 所長 小倉 肇氏 「世界遺産・熊野古道－魅力と意義」

内容：熊野古道の世界遺産に関わるエピソードやこれからの熊野古道を維持していく方法、東紀州の活性化について説かれた。

2年次に熊野の文化や歴史等の地域学習

① 5/31 (木) 講師 NPO法人MI-Kumano 理事 福辻 京子氏 「熊野古道ガイドの魅力」

内容：熊野ガイドの魅力について説かれた。

② 10/25 講師 佐藤春夫記念館長 辻本 雄一氏 「木本高校 校歌作詩者佐藤春夫について」

内容：佐藤春夫の作詩した校歌、木本高校の校歌の意味、「秋刀魚のうた」について説いた。

③ 11/1 講師 佐藤春夫記念館長 辻本 雄一氏 「『大逆事件』と熊野の人々」

内容：大逆事件は冤罪であり、紀州人の反骨の精神は時代を超えて生き続けている。同郷人の佐藤春夫の詩や中上健次のエッセイを通して、自由や平等の精神を説き続け、処刑された大石誠之助の人となりを解説した。大逆事件を過去の出来事としてとらえず、大逆事件の意義を問い直す必要がある。

④ 11/29 講師 新宮市学芸員 山本 殖生氏 「熊野文化の魅力」

内容：熊野三山、日本一的那智の滝、日本一のナギの木、日本一の熊野水軍等が全国に誇る宗教文化を作り上げたことを説明した。

2. 学校行事 熊野古道遠足 4/24 (火) (松本峠・大吹峠)+LHR 熊野古道遠足事前学習講演会 4/16 (月) (講師 熊野古道語り部友の会 山口 朝氏 「世界遺産・熊野古道伊勢路松本峠及び大吹峠の見どころについて」(1・2年)

3. 学校行事 奉仕作業 7/4 (水)、3/19 (火) 世界遺産 七里御浜・浜街道、松本峠、西郷川、通学路の清掃活動

内容：7/4 (水) (1~3年)、3/19 (火) (1~2年) 計2回の清掃活動と3/19 (火) に尾鷲海上保安部指導のもとで実施された、七里御浜・浜街道での漂着ゴミ調査 (2年普通科)

4. 木本高校防災プロジェクト活動Ⅱ 8/3 (金) 生徒1年有志9名及び地域住民

内容：大地震による大津波が発生した時を想定し、防災プロジェクトⅡを立ち上げ、生徒や地域住民の生命を守るため、三重大学工学部川口 淳研究室の指導のもと、地域住民と合議協力して、津波避難路を検討した。

5. 熊野古道ガイドプロジェクト 8/6 (月) ~ 8/7 (火) 生徒1・2年有志8名

内容：東紀州観光まちづくり公社の語り部友の会 山川 雅史氏、及び本校教員の指導の下、熊野古道伊勢路松本峠ガイド文 (和文・英文) を作成した。

6. 学校行事 地震・津波避難訓練 8/31 (金) 1~3年

内容：巨大地震・大津波を想定した避難訓練

7. 学校行事 文化祭にて防災啓発車体験 9/8 (土) 有志約200名参加

内容：地震体験車による震度6及び7体験

8. 第1回学校防災リーダー養成研修会 9/25(火) 防災担当者1名参加  
内容: 防災体制構築、防災教育の進め方、防災タウンウォッチング・防災マップづくり
9. 木本高等学校ユネスコスクール認定 10/15(月)
10. LHR 防災ノートを用いた防災学習 11/12(月) 1・3年  
内容: 担任がまず東日本大震災を受け、大震災の発生時、この地域で何が起こるのかを生徒にイメージさせ、防災ノートを使って、「学校、外出中、家にいるとき、災害に備えて」の4つのテーマについて真剣に考えさせ、本校通学時、在校時の津波避難路を確認させた。
11. 牟婁地区3校PTA合同研修会 11/15(木) 学校長・教頭・防災担当者・PTA役員参加  
内容: 南海トラフ大震災での被害が予想される牟婁地区県立高校3校の防災への備えに関する情報共有・情報交換
12. 三重大学ユネスコスクール研修会/シンポジウム2012 12/8(土)  
学校長他1名参加  
内容: 持続発展教育(ESD)の視点に立ったユネスコスクール推進のための関係者連絡会議及び小中学校や大学や地域での活動報告等
13. 三重大学ユネスコクラブ主催の熊野古道ツアー 12/15(土)  
参加 生徒会役員全員  
内容: 生徒会役員全員及び教員2名参加し、熊野古道伊勢路・馬越峠で三重大学学生、留学生、教授、一般市民と交流した。
14. 学校行事 木本高校ユネスコスクール認証式 1/8(火)  
内容: 三重県ユネスコ連絡協議会事務局長 辻 善嗣氏より学校長にユネスコスクール認定書、生徒会長にユネスコスクールプレートが授与された。
15. 第2回学校防災リーダー養成研修会 1/21(月) 防災担当者1名参加  
内容: 震災後の救援活動、防災体制の構築、消防署の利用方法
16. ユネスコスクール全国大会(於奈良教育大学) 1/26(土)  
学校長他1名参加  
内容: 特別講師による「語りとESD」の講演、各学校の取り組みの発表。分科会での情報交換等。
17. 学校行事 三重大学ユネスコクラブ講演会 3/21(木)  
講師 三重大学特任教授 宮崎 冴子氏・三重大学ユネスコクラブ副代表 岩崎 進也氏 「世界遺産・熊野古道の保全と継承」(1・2年)  
内容: 木本高校は世界遺産の中にあるとても貴重な学校であること。本校は世界遺産松本峠の真正性を保つことが大切であると述べ、ユネスコ、世界遺産

について説明後、三重大学ユネスコクラブのESD活動（次の世代に発展していく継続的な教育）について話された。ユネスコ活動の重要なポイント「参加する」「広げる」「つなげる」を示し、自分で参加して、色々な事を考えて動き、何でもやっていくことが大切であるとまとめた。

#### 18. 熊野古道ガイドプロジェクト実践トレーニング 3/24（日）

有志3名参加

内容：近隣のALT 7名相手に各自が作成したガイド文で、熊野古道松本峠の英語ガイドを行った。

### まとめ

生徒はこの1年の学習や体験を通じて、次のような意識の向上が見られた。

#### 1. 世界遺産

世界遺産・熊野古道がどれだけ大切な財産か、後世に伝えていくことの大切さを感じたようである。中には地域住民として、より詳しく熊野古道について知り、より深く熊野古道に関わろうと思い始めた生徒もいる。

何気なく見ていた世界遺産の魅力をたくさん知り、熊野にあるさまざまな世界遺産の見方や考え方が変わり、世界遺産についてもっと知りたい、地域のことをもっと詳しく知りたいと、地域に何ができるかを考えることができる生徒が出てきたことは特筆すべきことである。今後に期待するものである。

#### 2. 防災

防災プロジェクトに参加した生徒は、地震の被害はきちんと前もって準備しておけば最小限に抑えられることを知った。また、地震が起きた時に、自分の事も大事だが、友達、家族、お年寄り、小さな子供のことも助けられたらと感じていた。

災害から生命を守るためには、この地域の現状を知り、災害についての知識を深め、災害が起きても出来る限り被害を少なくする方法を考え、行動していかなければならないことを学んだ。

ユネスコスクールに新たに認定されたことを忘れずに、これからも世界遺産をはじめ、地域を大切に活動を進らせていきます。

活動時間について（下記から選択して下さい。）

通常の授業時間を使用（「総合的な学習の時間」及び「産業社会と人間」を含む）

時間外活動の時間を使用

ユネスコクラブの活動として実施

その他（

）

